

一般質問 高橋 浩之 議員

や相談員の配置、外部の市町村職員共済組合への相談体制を整備している。

問 町はハラスメント相談の傾向をどのように把握しているのか。



答 現在は特に大きな事案は発生していないと認識している。研修を通じてハラスメントの防止を徹底している。

問 行政と教育委員会のハラスメント防止等に関する要綱が制定されているが、ハラスメントの多様化が進む中、職場環境の改善にどう生かされているのか。また職員が相談しやすい職場環境づくりや外部機関を活用した相談機能の充実をどのように進めて行くのか。

答 町では毎年全職員を対象とした研修や係長以上の中間職員に外部研修に参加させ、ハラスメント対策をしていく。また毎月の産業医面談で、職場環境の改善について意見交換を行っている。



問 働きやすい職場環境をつくるには

答 しっかり対策はしているが、状況に応じ、対応していく



問 今後の狩猟ハンターの担い手確保は

答 狩猟に関心のある方を育成して行きたい

問 これまで主にサル・イノシシの対策をしてきたが、近年はクマの出没が深刻になっている。全国的にも狩猟ハンターの確保が困難となつており、今後の人材確保はどういう形で進めていくのか。

答 これまで同様に獣友会の協力の下に有害鳥獣駆除隊員の育成を図り、隊員の増員に向け新たな狩猟免許取得者に対する支援として、どのように進めていくのか。



資格取得の補助金を実施してクマ緊急対策支援事業として、住宅地内の不要な柿の木や栗の木は、町が伐採することにした。

問 現在の追い払い隊や駆除隊員で対応可能なのか。また実動できる隊員数、人材確保について。

答 実働可能な駆除隊員は6名。うち4名は追い払いパトロール隊。当分の間は維持できると考えているが、今後狩猟に関心のある若い方を補充しながら育成して行きたい。

問 サル・イノシシの増加が西部地区、増加傾向と聞く。特に千蒲地区では人口減少と戸数減少により、集落管理が限界に来ている。ク

マの出没も加わり、ヨモギの収穫など困難になるのではないか。

答 ヨモギ栽培には電気柵が有効である。町民であれば電気柵の設置に4／5町補助を実施しているためぜひ利用して頂き、安心できる体制を考えて行きたい。

問 町として、町民向けの勉強会や小学校での安全教育取り組み・見守りなどを考える。

【自己チェックシート】

エサ不足による、冬眠しないクマ出没で人間まで襲われる報道が連日取り上げられている。今後も続くと考えられることから、将来に向けたプロの担い手ハンター育成が必要と質問をした。具体的にどのようにして確保していくのか、もう少し質疑すべきだつた。

的な人間関係など教育現場の特性を踏まえた独自のガイドラインなどはあるのか。更に保護者からの過度なカスタ

マーハラスメントへの対応指針を策定する考えはあるか。

答 教育委員会では、校長・教頭会議で非違行為防止としてハラスメントが無い様、継続的に周知している。学校では月1回のコンプライアンスシートによる自己点検も実施している。カスタマー・ハラスマントについては重大な事例ではなく学校、保育所が保護者の意を十分汲み取り適切に対応している。

すべて個人の努力に頼るだけでなく、組織として学びを共有し、風通しの良い職場づくりを進めることが大切だと考えます。これらの課題に向かって、相談体制やガイドラインの整備、職場内部が個々に協力し合える状況を構築し、特に潜在化したケースを見逃さない視点も重要ではないかと感じました。

今回は町長、教育長のそれぞれに質問を行う事が出来ました一般質問の幅が広がる可能性を感じ取ることが出来たことは非常に意義があると感じています。

合は保護者による送迎や町営バスの有効活用など安全対策を講じたい。又、地域からの相談があれば対応したい。

問 畑にかかった獸の処理は危険を伴う命がけの作業であり、高い技術を持つハンターへや担い手の育成が必要でないか。

答 経験を積んだハンターが3～4名いる。クマの駆除については、経験をしないといざという時の対応が困難なため、技術を伝承して後継者を育成してもらいたい。